

～まちの話題～



百万遍念仏を唱える同行衆

農作業で犠牲になった虫を供養するために念仏を唱えたことが始まりといわれる「虫供養」は、平安時代の終わりころから続く民俗信仰行事です。

町内十三地区の持ち回りで行われ、今年は草木地区が当番です。一年前に坂部地区から引き継いだ供養の道具一式を寒干しや土用干しなどをして大切に保管してきました。



砂山を踏む子ども

愛知県の指定無形民俗文化財「知多の虫供養行事」阿久比谷虫供養が九月二十三日、草木公民館の敷地内で開かれました。雨が降っているにもかかわらず、伝統行事を一目見ようと、多くの人が集まりました。

念仏を唱えて 虫供養

午後、子どもたちの囃子の奉納後、大道場では同行約三十人が二時間に渡り、百万遍念仏を唱えて虫供養が行われました。

夕方、子どもたちの囃子の奉納後、大道場では同行約三十人が二時間に渡り、百万遍念仏を唱えて虫供養が行われました。

夕方、子どもたちの囃子の奉納後、大道場では同行約三十人が二時間に渡り、百万遍念仏を唱えて虫供養が行われました。

会場には大道場と八つの小屋が設けられました。町指定文化財の十二幅の掛け軸などが飾られ、朝から鉦や太鼓の音が響き渡りました。

大塔婆の前に敷かれた砂山を乳幼児に、はだしで踏ませると、「かんの虫封じ」などになると言い伝えがあり、多くの家族連れの姿もありました。



厳粛な中での引き渡し

ダイヤモンド・金婚者を祝う

結婚60周年のダイヤモンド婚者、50周年の金婚者を祝う「お祝いの会」が9月29日、エスパランス丸山で開かれ、6組のダイヤモンド婚者、47組の金婚者の夫婦を祝いました。

お祝いの会実行委員がダイヤモンド婚者夫婦にマイクを向け、感想を尋ねると「戦争に行って、亡くなった友もいる。この席にいてのは夢のようです。ありがたいです」と手を合わせていました。

これからも健康で、末永くお幸せに。



インタビューに答えるダイヤモンド婚者夫婦